



Sun N1 Service Provisioning System ユーザーズガイド (Windows 2000 Plug-In 3.0)



Sun Microsystems, Inc.
4150 Network Circle
Santa Clara, CA 95054
U.S.A.

Part No: 819-6494-10
2006年4月

本製品およびそれに関連する文書は著作権法により保護されており、その使用、複製、頒布および逆コンパイルを制限するライセンスのもとにおいて頒布されます。サン・マイクロシステムズ株式会社の書面による事前の許可なく、本製品および関連する文書のいかなる部分も、いかなる方法によっても複製することが禁じられます。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいていることがあります。UNIX は、X/Open Company, Ltd. が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。フォント技術を含む第三者のソフトウェアは、著作権により保護されており、提供者からライセンスを受けているものです。

U.S. Government Rights Commercial software. Government users are subject to the Sun Microsystems, Inc. standard license agreement and applicable provisions of the FAR and its supplements.

本製品に含まれる HG-MinchoL、HG-MinchoL-Sun、HG-PMinchoL-Sun、HG-GothicB、HG-GothicB-Sun、および HG-PGothicB-Sun は、株式会社リコーがリョービマジクス株式会社からライセンス供与されたタイプフェースマスタをもとに作成されたものです。HeiseiMin-W3H は、株式会社リコーが財団法人日本規格協会からライセンス供与されたタイプフェースマスタをもとに作成されたものです。フォントとして無断複製することは禁止されています。

Sun、Sun Microsystems、docs.sun.com、Java、および N1 は、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems, Inc. (以下、米国 Sun Microsystems 社とします) の商標、登録商標もしくは、サービスマークです。

サンのロゴマーク、Solaris のロゴマーク、Java Coffee Cup のロゴマーク、および Solaris は、米国 Sun Microsystems 社の登録商標です。

すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャに基づくものです。

OPENLOOK、OpenBoot、JLE は、サン・マイクロシステムズ株式会社の登録商標です。

Wnn は、京都大学、株式会社アステック、オムロン株式会社で共同開発されたソフトウェアです。

Wnn6 は、オムロン株式会社、オムロンソフトウェア株式会社で共同開発されたソフトウェアです。Copyright OMRON Co., Ltd. 1995-2000. All Rights Reserved. © Copyright OMRON SOFTWARE Co., Ltd. 1995-2002 All Rights Reserved. ©

「ATOK」は、株式会社ジャストシステムの登録商標です。

「ATOK Server/ATOK12」は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、「ATOK Server/ATOK12」にかかる著作権その他の権利は、株式会社ジャストシステムおよび各権利者に帰属します。

「ATOK Server/ATOK12」に含まれる郵便番号辞書(7桁/5桁)は日本郵政公社が公開したデータを元に制作された物です(一部データの加工を行なっています)。

「ATOK Server/ATOK12」に含まれるフェイスマーク辞書は、株式会社ビレッジセンターの許諾のもと、同社が発行する『インターネット・パソコン通信フェイスマークガイド』に添付のものを使用しています。

Unicode は、Unicode, Inc. の商標です。

本書で参照されている製品やサービスに関しては、該当する会社または組織に直接お問い合わせください。

OPEN LOOK および Sun Graphical User Interface は、米国 Sun Microsystems 社が自社のユーザおよびライセンス実施権者向けに開発しました。米国 Sun Microsystems 社は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカル・ユーザインタフェースの概念の研究開発における米国 Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。米国 Sun Microsystems 社は米国 Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは、OPEN LOOK のグラフィカル・ユーザインタフェースを実装するか、またはその他の方法で米国 Sun Microsystems 社との書面によるライセンス契約を遵守する、米国 Sun Microsystems 社のライセンス実施権者にも適用されます。

本書は、「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も行われぬものとします。

本製品が、外国為替および外国貿易管理法(外為法)に定められる戦略物資等(貨物または役務)に該当する場合、本製品を輸出または日本国外へ持ち出す際には、サン・マイクロシステムズ株式会社の事前の書面による承諾を得ることのほか、外為法および関連法規に基づく輸出手続き、また場合によっては、米国商務省または米国所轄官庁の許可を得ることが必要です。

原典: Sun N1 Service Provisioning System User's Guide for Windows 2000 Plug-In 3.0

Part No. 819-4884-10

目次

はじめに	7
1 Windows 2000 プラグインの概要	11
Windows 2000 プラグインの目的	11
Windows 2000 プラグインに含まれるもの	11
Windows 2000 プラグインを使用するための要件	13
配備サーバーの要件	13
ターゲットホストの要件	13
2 Sun N1 Service Provisioning System Windows 2000 プラグインのリリースノート	15
インストール上の問題	15
実行時の問題	15
英語以外の Windows 2000 サーバーで IIS Web サイトまたは IIS 仮想ディレクトリコン ポーネントの配備に失敗する (6318972)	15
3 Windows 2000 プラグインのインストールと構成	17
Windows 2000 プラグインの入手	17
Solaris への Windows 2000 プラグインの追加	18
▼ Solaris 用の Windows 2000 プラグインを追加する	18
Linux への Windows 2000 プラグインの追加	18
▼ Linux 用の Windows 2000 プラグインを追加する	18
Windows への Windows 2000 プラグインの追加	19
▼ Windows 用の Windows 2000 プラグインを追加する	19
Sun N1 Service Provisioning System への Windows 2000 プラグインのインポート	19
▼ ブラウザインタフェースを使用して Windows 2000 プラグインをインポートする	19
▼ CLI を使用して Windows 2000 プラグインをインポートする	20
環境に応じたソリューションのカスタマイズ	20
アップグレード関連の注意事項	20

▼ 旧バージョンのコンポーネントにアクセスする	20
Windows 2000 プラグインへのパッチの適用	21
4 Windows 2000 プラグインの使用法	23
ファイルおよびアプリケーションの取得と配備	23
▼ Windows 2000 ファイルまたはアプリケーションを取得する	24
▼ Windows 2000 ファイルまたはアプリケーションを配備する	25
コンポーネントタイプ	26
Windows アプリケーションコンポーネントタイプ	26
IIS コンポーネントタイプ	30
追加の Windows コンポーネントタイプ	34
Microsoft Windows System サービス	38
拡張コントロールサービス	38
IIS 用の拡張コントロールサービス	39
Microsoft Windows サービス用の拡張コントロールサービス	39
索引	41

表目次

表 4-1	COM+ アプリケーションのエラー状態	27
表 4-2	COM+ アプリケーション拡張コントロールプロシージャ	28
表 4-3	COM コンポーネントのエラー状態	29
表 4-4	Microsoft Windows インストーラファイルのエラー状態	30
表 4-5	IIS タイプ共通のエラー状態	31
表 4-6	レジストリキーのエラー状態	35
表 4-7	レジストリファイルのエラー状態	36
表 4-8	Microsoft Windows バッチファイルのエラー状態	37
表 4-9	Microsoft Windows Scripting Host スクリプトのエラー状態	38
表 4-10	IIS を制御する組み込みプロシージャ	39
表 4-11	Microsoft Windows サービスを制御する組み込みプロシージャ	39

はじめに

『Sun N1™ Service Provisioning System ユーザーズガイド (Windows 2000 Plug-In 3.0)』では、Sun N1 Service Provisioning System をインストール、構成、および使用することにより、Windows COM、COM+、Internet Information Services (IIS) のファイルやアプリケーションをプロビジョニングする方法について説明します。

対象読者

このマニュアルは、Windows 2000 ファイルおよびアプリケーションを Sun N1 Service Provisioning System ソフトウェアを使用して取得し配備しようと考えている Sun N1 Service Provisioning System ソフトウェアのシステム管理者およびオペレータを対象にしています。対象読者は、次の知識があることを前提とします。

- Sun N1 Service Provisioning System 製品
- 標準の UNIX® および Microsoft Windows コマンドとユーティリティ
- Windows 2000、COM、COM+、および IIS に関連する一般的な概念

お読みになる前に

Sun N1 Service Provisioning System ソフトウェアの使用経験がない場合は、次のマニュアルの一読をお勧めします。

- 『Sun N1 Service Provisioning System 5.2 システム管理者ガイド』
- 『Sun N1 Service Provisioning System 5.2 オペレーションとプロビジョニングガイド』
- 『Sun N1 Service Provisioning System 5.2 リリースノート』

マニュアルの構成

第1章では、Windows 2000 プラグインの概要について説明します。

第2章では、Windows 2000 プラグインに関する最新のニュースや問題について説明します。

第3章では、Windows 2000 プラグインのインストールと構成の方法について説明します。

第4章では、Windows 2000 プラグインと共に提供される特定のコンポーネントやプランの使用方法について説明します。

Sun 以外の Web サイト

このマニュアルで参照している Sun 以外の URL は、追加の関連情報を提供します。

注- このマニュアル内で引用する Sun 以外の Web サイトの可用性については、Sun は責任を負いません。Sun は、これらのサイトあるいはリソースに関する、あるいはこれらのサイト、リソースから利用可能であるコンテンツ、広告、製品、あるいは資料に関して一切の責任を負いません。こうしたサイトやリソース上で、またはこれらを経由して利用できるコンテンツ、製品、サービスを利用または信頼したことに伴って発生した (あるいは発生したと主張される) 実際の (あるいは主張される) 損害や損失についても、Sun は一切の責任を負いません。

マニュアル、サポート、およびトレーニング

Sun の Web サイトでは、以下の追加情報を提供しています。

- マニュアル (<http://jp.sun.com/documentation/>)
- サポート (<http://jp.sun.com/support/>)
- トレーニング (<http://jp.sun.com/training/>)

表記上の規則

このマニュアルでは、次のような字体や記号を特別な意味を持つものとして使用します。

表 P-1 表記上の規則

字体または記号	意味	例
AaBbCc123	コマンド名、ファイル名、ディレクトリ名、画面上のコンピュータ出力、コード例を示します。	.login ファイルを編集します。 <code>ls -a</code> を使用してすべてのファイルを表示します。 <code>machine_name% you have mail.</code>
AaBbCc123	ユーザーが入力する文字を、画面上のコンピュータ出力と区別して示します。	<code>machine_name% su</code> Password:

表 P-1 表記上の規則 (続き)

字体または記号	意味	例
<i>AaBbCc123</i>	変数を示します。実際に使用する特定の名前または値で置き換えます。	ファイルを削除するには、 <code>rm filename</code> と入力します。
『』	参照する書名を示します。	『コードマネージャ・ユーザーズガイド』を参照してください。
「」	参照する章、節、ボタンやメニュー名、強調する単語を示します。	第5章「衝突の回避」を参照してください。 この操作ができるのは、「スーパーユーザー」だけです。
\	枠で囲まれたコード例で、テキストがペー ジ行幅を超える場合に、継続を示します。	<code>sun% grep '^#define \ XV_VERSION_STRING'</code>

コード例は次のように表示されます。

- C シェル

```
machine_name% command y|n [filename]
```

- C シェルのスーパーユーザー

```
machine_name# command y|n [filename]
```

- Bourne シェルおよび Korn シェル

```
$ command y|n [filename]
```

- Bourne シェルおよび Korn シェルのスーパーユーザー

```
# command y|n [filename]
```

[] は省略可能な項目を示します。上記の例は、*filename* は省略してもよいことを示しています。

| は区切り文字 (セパレータ) です。この文字で分割されている引数のうち 1 つだけを指定します。

キーボードのキー名は英文で、頭文字を大文字で示します (例: Shift キーを押します)。ただし、キーボードによっては Enter キーが Return キーの動作をします。

ダッシュ (-) は 2 つのキーを同時に押すことを示します。たとえば、Ctrl-D は Control キーを押したまま D キーを押すことを意味します。

Windows 2000 プラグインの概要

この章では、Sun N1 Service Provisioning System を使用した Windows 2000 アプリケーションのプロビジョニングについて説明します。この章では、次の内容について説明します。

- 11 ページの「Windows 2000 プラグインの目的」
- 11 ページの「Windows 2000 プラグインに含まれるもの」
- 13 ページの「Windows 2000 プラグインを使用するための要件」

Windows 2000 プラグインの目的

Sun N1 Service Provisioning System ソフトウェアは、Windows Internet Information Services (IIS)、COM、COM+ アプリケーションがすぐに使用できる増強された機能を提供します。アプリケーションは Windows 2000 システムから取得し、このアプリケーションをどのように構成するかを厳密に選択できます。また、アプリケーションをスタンドアロン環境、管理対象環境、またはクラスタ化した Windows 2000 環境に配備できます。

Microsoft Windows IIS については、<http://www.microsoft.com/resources/documentation/iis/6/all/proddocs/en-us/iiswelcome.mspx> を参照してください。

Windows 2000 プラグインに含まれるもの

Windows 2000 プラグインには、複数の Windows 特有のコンポーネントタイプと、定義済みのコンポーネントおよびリソースファイルが含まれており、簡単に Windows IIS、COM、および COM+ アプリケーションを取得、構成、および配備することができます。Windows 2000 プラグインには、次の項目が含まれます。

```
2.0/resources/com/sun/windows/soap.jar
3_0_1/resources/com/sun/windows/cmdInDir.bat
3_0_1/resources/com/sun/windows/cscriptInDir.bat
3_1_1/resources/com/sun/windows/IMSABOWrapper.dll
```

fiji/components/com/sun/windows/compTypes/Batch File CT.xml
fiji/components/com/sun/windows/compTypes/COM Component CT.xml
fiji/components/com/sun/windows/compTypes/COMPlus CT.xml
fiji/components/com/sun/windows/compTypes/DSN CT.xml
fiji/components/com/sun/windows/compTypes/Global ISAPI Filter CT.xml
fiji/components/com/sun/windows/compTypes/IIS Application CT.xml
fiji/components/com/sun/windows/compTypes/IIS Global Settings CT.xml
fiji/components/com/sun/windows/compTypes/IIS Site CT.xml
fiji/components/com/sun/windows/compTypes/MSI CT.xml
fiji/components/com/sun/windows/compTypes/Metabase Base CT.xml
fiji/components/com/sun/windows/compTypes/Registry File CT.xml
fiji/components/com/sun/windows/compTypes/Registry Key CT.xml
fiji/components/com/sun/windows/compTypes/Website ISAPI Filter CT.xml
fiji/components/com/sun/windows/compTypes/Windows Scripting Host CT.xml
fiji/components/com/sun/windows/simpleComps/jacozoom/21100220.LIC.xml
fiji/components/com/sun/windows/simpleComps/jacozoom/JacozoomContainer.xml
fiji/components/com/sun/windows/simpleComps/jacozoom/izmcomjni.jar.xml
fiji/components/com/sun/windows/simpleComps/jacozoom/izmjnicom.dll.xml
fiji/components/com/sun/windows/simpleComps/jacozoom/winutils.jar.xml
fiji/components/com/sun/windows/simpleComps/IMSABOWrapper.dll.xml
fiji/components/com/sun/windows/simpleComps/cmdInDir.bat.xml
fiji/components/com/sun/windows/simpleComps/cscriptInDir.bat.xml
fiji/components/com/sun/windows/simpleComps/plugin-win32.jar.xml
fiji/components/com/sun/windows/simpleComps/tmp_cmdInDir.bat.xml
fiji/components/com/sun/windows/simpleComps/tmp_cscriptInDir.bat.xml
fiji/components/com/sun/windows/sysServices/COMPlus SS.xml
fiji/components/com/sun/windows/sysServices/DSN SS.xml
fiji/components/com/sun/windows/sysServices/Metabase SS.xml
fiji/components/com/sun/windows/sysServices/Registry Key SS.xml
fiji/components/com/sun/windows/sysServices/Windows Services SS.xml
fiji/resources/com/sun/windows/plugin-win32.jar
fiji/resources/com/sun/windows/jacozoom/izmcomjni.jar
fiji/resources/com/sun/windows/jacozoom/winutils.jar
fiji/resources/com/sun/windows/jacozoom/21100220.LIC
fiji/resources/com/sun/windows/jacozoom/izmjnicom.dll
redmond/components/com/sun/windows/simpleComps/tmp_cmdInDir.bat.xml
redmond/components/com/sun/windows/simpleComps/tmp_cscriptInDir.bat.xml
redmond/resources/com/sun/windows/cmdInDir.bat
redmond/resources/com/sun/windows/cscriptInDir.bat

Windows 2000 プラグインを使用するための要件

配備サーバーの要件

Windows 2000 プラグインを配備する予定のホストは、次の要件を満たす必要があります。

オペレーティングシステム	正しいバージョンのオペレーティングシステム
ディスク容量	インストール製品用に約 236M バイトの未使用記憶領域が必要であり、約 170M バイトの一時記憶域がインストーラに要求されます。
RAM	256M バイト (最小)、512M バイト (推奨)

ターゲットホストの要件

Windows 2000 ファイルおよびアプリケーションを配備する予定のホストは、適切なバージョンの Windows 2000 オペレーティングシステムを実行している必要があります。

Sun N1 Service Provisioning System Windows 2000 プラグインのリリースノート

この章では、Sun N1 Service Provisioning System Windows 2000 プラグインの最新情報、および既知の問題について説明します。

この章では、次の項目について説明します。

- 15 ページの「インストール上の問題」
- 15 ページの「実行時の問題」

インストール上の問題

インストールに関する問題はありません。

実行時の問題

Windows 2000 プラグインの実行時には、次の問題が発生することが判明しています。

英語以外の **Windows 2000** サーバーで **IIS Web** サイトまたは **IIS** 仮想ディレクトリコンポーネントの配備に失敗する (6318972)

英語以外の Windows 2000 サーバーでは、IIS 仮想ディレクトリコンポーネントの配備に失敗します。

次のエラーメッセージが表示されます。

```
Error occured during ExecJava execution in class
com.sun.n1.sig.plugin.windows.execjava.metabase.MetaImportExecutor(011100)
Unable to deploy IIS Metabase node "IIS://localhost/W3SVC/3/ROOT/FMStocks".
Its parent node could not be found on the target host. (019607)
```

回避策: 次の手順を行います。

1. Windows マシン上に、異なる Web サイトを ASCII 名で作成します。
 - a. ホスト名を右クリックします。
 - b. 新規ドロップダウンメニューから、WebSite を選択し、Web Site Creation ウィザードを起動します。

たとえば、*NewWebSite* のような名前を使用します。

2. IIS Web Site or Virtual Directory Settings コンポーネントの `rsrcSourcePath` 変数のデフォルト値を変更して、*NewWebSite* をパスの接頭辞として使用します。

たとえば、次のように指定します。

```
<var name="rsrcSourcePath" default="NewWebSite/ROOT/FMStocks"></var>
```

デフォルト値は、次のようになっています。

```
<var name="rsrcSourcePath" default="Default Web Site/ROOT/FMStocks"></var>
```

または、`rsrcSourcePath` の新しい変数セットを作成します。

Windows 2000 プラグインのインストールと構成

この章では、Windows 2000 プラグインをインストールして構成する方法について説明します。この章では、次の内容について説明します。

- 17 ページの「Windows 2000 プラグインの入手」
- 19 ページの「Sun N1 Service Provisioning System への Windows 2000 プラグインのインポート」
- 20 ページの「環境に応じたソリューションのカスタマイズ」
- 20 ページの「アップグレード関連の注意事項」

Windows 2000 プラグインの入手

Windows 2000 プラグインを入手する手順は 2 段階に分かれます。はじめに Windows 2000 プラグイン JAR ファイルが含まれたパッケージファイルをシステムに追加する必要があります。そのあとに Windows 2000 プラグイン JAR ファイルをインポートします。

Windows 2000 プラグインは、Sun N1 Service Provisioning System ソフトウェアに対するプラグインとしてパッケージ化されています。プラグインは Java™ アーカイブ (JAR) ファイルとしてパッケージ化されています。Windows 2000 プラグイン用のプラグインファイルは、Sun N1 Service Provisioning System Supplement CD または Sun Download Center から入手できます。

パッケージファイルをシステムに追加すると、Windows 2000 プラグインは 2 種類の JAR ファイルからインポートできます。状況に応じて、適切なファイルを選択してください。

- Windows 2000 プラグインをはじめてインポートする場合は、`com.sun.windows_3.0.jar` ファイルを使用します。
 - 旧バージョンの Windows 2000 プラグインがすでにインポートされている場合は、`com.sun.windows_2.0_3.0.jar` ファイルを使用します。
1. JAR ファイルを含むファイルを追加します。
 - 18 ページの「Solaris への Windows 2000 プラグインの追加」

- 18 ページの「Linux への Windows 2000 プラグインの追加」
 - 19 ページの「Windows への Windows 2000 プラグインの追加」
2. JAR ファイルをインポートします。-19 ページの「Sun N1 Service Provisioning System への Windows 2000 プラグインのインポート」

Solaris への Windows 2000 プラグインの追加

Windows 2000 プラグインは、SUNWspswin パッケージに含まれています。

▼ Solaris 用の Windows 2000 プラグインを追加する

- 1 端末ウィンドウで、スーパーユーザーになります。
- 2 プラグインパッケージを含むディレクトリに移動します。
- 3 次のコマンドを入力し、Return キーを押します。

```
# pkgadd -d . SUNWspswin
```

スタンドアロン用 JAR ファイルは /opt/SUNWn1sps/plugins/om.sun.windows/ ディレクトリにあります。アップグレード用 JAR ファイルは /opt/SUNWn1sps/plugins/com.sun.windows/Upgrade ディレクトリにあります。

Linux への Windows 2000 プラグインの追加

Windows 2000 プラグインは、SUNWspswin.rpm ファイルに含まれています。

▼ Linux 用の Windows 2000 プラグインを追加する

- 1 端末ウィンドウで、スーパーユーザーになります。
- 2 sun-spswin-3.0-1.noarch.rpm ファイルを含むディレクトリに移動します。
- 3 次のコマンドを入力し、Return キーを押します。

```
# rpm -i sun-spswin-3.0-1.noarch.rpm
```

スタンドアロン用 JAR ファイルは /opt/sun/N1_Service_Provisioning_System/plugins/com.sun.windows/ ディレクトリにあります。アップグレード用 JAR ファイルは /opt/sun/N1_Service_Provisioning_System/plugins/com.sun.windows/Upgrade ディレクトリにあります。

Windows への Windows 2000 プラグインの追加

Windows 2000 プラグインは、SUNWspswin.msi ファイルに含まれています。

▼ Windows 用の Windows 2000 プラグインを追加する

- 1 SUNWspswin.ms ファイルを含むディレクトリに移動します。
- 2 SUNWspswin.msi ファイルをダブルクリックします。
インストーラの GUI が起動されます。JAR ファイルは、C:\Program Files\N1 Service Provisioning System\plugins\com.sun.windows ディレクトリにコピーされます。

Sun N1 Service Provisioning System への Windows 2000 プラグインのインポート

ある特定のプラグインを Sun N1 Service Provisioning System 製品に認識させるには、そのプラグインをマスターサーバーにインポートする必要があります。旧バージョンの Windows 2000 プラグインがすでにインポートされている場合は、新しいプラグインにアップグレードする必要があります。

▼ ブラウザインタフェースを使用して Windows 2000 プラグインをインポートする

プラグインをインポートまたはアップグレードするには、『Sun N1 Service Provisioning System 5.2 システム管理者ガイド』の第 5 章「プラグインの管理」で詳しく説明されている手順に従います。

- 1 ブラウザインタフェースのメインウィンドウの「Administrative」セクションで、「Plug-ins」をクリックします。
- 2 「Plug-ins」ページの「Action」列で、「Import」をクリックします。
- 3 JAR ファイルの場所に移動します。
 - Windows 2000 プラグインをはじめてインポートする場合は、com.sun.windows_3.0.jar ファイルを選択します。
 - 旧バージョンの Windows 2000 プラグインがすでにインポートされている場合は、com.sun.windows_2.0_3.0.jar ファイルを選択します。
- 4 「Continue to Import」ボタンをクリックします。
インポートが正常に終了すると、プラグインの詳細ページが開いて、そのプラグインが提供するオブジェクトが表示されます。

▼ CLI を使用して Windows 2000 プラグインをインポートする

コマンド行を使用して、プラグインをインポートすることもできます。

- ▶ CLI からプラグインファイルをインポートするには、次のように入力します。

```
% cr_cli -cmd plg.p.add -path plugin-filename -u username -p password
```

- Windows 2000 プラグインをはじめてインポートする場合は、*plugin-filename* は *com.sun.windows_3.0.jar* になります。
- 旧バージョンの Windows 2000 プラグインがすでにインポートされている場合は、*plugin-filename* は *com.sun.windows_2.0_3.0.jar* になります。

環境に応じたソリューションのカスタマイズ

プロビジョニングソフトウェアインタフェースから、指定のフォルダに次のアクセス許可を与える必要があります。

- /com/sun/windows フォルダ
 - ユーザーが配備する予定のホスト上で、Windows 2000 プラグインコンポーネントを使用する配備担当ユーザーに、*allow on host set* アクセス許可を与えます。さらに、準備する予定のホスト上で、Windows ホストを準備する予定のすべてのユーザーにこのアクセス許可を与えます。
 - *run component procedures* アクセス許可は、必要な場合にのみ与えます。このアクセス許可は、非運用システムでのみ、あるいは信頼される管理ユーザーに対して付与することを推奨します。このアクセス許可では、*com.sun.windows#services* システムサービスのサービスを直接実行できます。これらのサービスとして、サービスの起動と停止の制御、バッチファイルと *cscript* ファイルの実行、および MSI の管理が含まれます。
- /com/sun/windows/jacozoom フォルダ
 - 準備する予定のホスト上で、Windows ホストを準備する予定のすべてのユーザーに、*allow on host set* アクセス許可を与えます。

アップグレード関連の注意事項

ここでは、アップグレード後の旧バージョンのコンポーネントの表示に関する情報を示します。

▼ 旧バージョンのコンポーネントにアクセスする

新しいバージョンのプラグインにアップグレードすると、そのプラグインの「Common Tasks」ページが更新され、新しいバージョンのプラグインを使用してインストールされ

たコンポーネントへのリンクが表示されます。この機能により、最新の機能と改善点を含むコンポーネントを簡単に表示できます。古い機能に依存するコンポーネントは、「Common Tasks」ページからはリンクされません。

以前にインストールしたコンポーネントが見つからない場合、そのコンポーネントは旧バージョンのプラグインから作成された可能性があります。

旧バージョンのコンポーネントを表示または使用するには、次の手順に従います。

- 1 「Common Tasks」ページで、適切なコンポーネントプロシージャをクリックします。「Component Detail」ページが表示されます。
- 2 「Component Details」ページで「Version History」をクリックします。コンポーネントとバージョンのリストが表示されます。
- 3 適切なリンクをクリックします。
 - a. コンポーネントの機能を実行するには、そのバージョン番号をクリックするか、使用するコンポーネントに適用される詳細リンクをクリックします。
 - b. コンポーネントがインストールされている場所を知るには、「Where Installed」をクリックします。

Windows 2000 プラグインへのパッチの適用

Windows 2000 プラグインに適用可能なパッチは、SunSolve (<http://sunsolve.sun.com>) サイトを確認します。パッチを適用するには、パッチの README の手順に従います。

Windows 2000 プラグインの使用法

この章では、Windows 2000 アプリケーションおよびファイルを取得し配備する方法について説明します。この章では、次の情報について説明します。

- 23 ページの「ファイルおよびアプリケーションの取得と配備」
- 26 ページの「コンポーネントタイプ」
- 38 ページの「Microsoft Windows System サービス」
- 38 ページの「拡張コントロールサービス」

注 - installPath 変数の値は、/opt や c:mydir などの絶対パスを指定しないかぎり、デフォルトのリモートエージェントディレクトリの相対パスとして扱われます。たとえば、Windows リモートエージェントで installPath 変数を c:mydir に設定し、デフォルトのリモートエージェントディレクトリ c:\Program Files\N1 Service Provisioning System\agent でエージェントにファイルを配備すると、ファイルは c:\Program Files\N1 Service Provisioning System\agent\c\mydir に配備されます。

ファイルおよびアプリケーションの取得と配備

「Windows common tasks」ページを使用して、次の Windows 2000 エンティティ用のコンポーネントを表示したり作成することができます。

- Windows アプリケーションは、次の 3 タイプに分かれます。
 - COM+ アプリケーション
 - COM オブジェクト
 - Microsoft Windows インストーラファイル (.msi)
- Internet Information Server (IIS) アプリケーションおよびサポートファイルは、次の 5 タイプに分かれます。
 - IIS アプリケーション
 - IIS web サイトまたは仮想ディレクトリ設定
 - IIS グローバル設定
 - ISAPI グローバルフィルタ設定

- ISAPI web サイトフィルタ設定
- その他の Windows の共通ファイルは、次の 5 タイプに分かれます。
 - レジストリキー
 - レジストリファイル
 - データソース名
 - バッチファイル
 - スクリプティングホストスクリプト

▼ Windows 2000 ファイルまたはアプリケーションを取得する

システム間にわたってファイルまたはアプリケーションを配備する前に、このファイルまたはアプリケーションを Sun N1 Service Provisioning System ソフトウェアに認識させ、それをコンポーネントに含める必要があります。

注-実行する一般的な手順は、すべてのコンポーネントタイプで同じですが、詳細手順は、使用する必要のある実際のタイプによって異なります。

- 1 左コントロールパネルの「**Common Tasks**」セクションの下にある **Windows** アイコンを選択します。
- 2 作成するコンポーネントタイプの横にある「**Create New link**」をクリックします。
たとえば、バッチファイルを含むコンポーネントを作成するには、次の手順を実行します。
 - a. 「**Additional Windows Tasks**」セクションに進みます。
 - b. 「**Create New next to Windows Batch File**」をクリックします。
- 3 「**Components Details Edit**」ページで、適切な情報を入力します。
たとえば、バッチファイルの場合、次の情報を入力します。
 - a. コンポーネントの名前を入力します。
 - b. バッチファイルを入手するホストを選びます。
 - c. ホストのファイルシステム階層内を移動し、バッチファイルを選択します。
- 4 「**Check in Selected Item**」をクリックします。

参考 コマンド行の使用

コンポーネントは、コマンド行を使用して作成することもできます。コマンドの詳細については、『Sun N1 Service Provisioning System 5.2 コマンド行インタフェース (CLI) リファレンスマニュアル』の「cdb.rsrc: コンポーネントの管理」を参照してください。

- バッチファイル、コマンドファイル、または動的リンクのライブラリファイルなど、単純なファイルには、次のコマンドを使用します。`cr_cli -cmd cdb.rsrc.ci -src filename -dst component-name -u username -p password`

ここで:

- `filename` は、チェックインするファイルの名前になります。
- `component-name` には、コンポーネントの名前を指定します。
- COM+ アプリケーション、レジストリキー、またはデータソース名など、ブラウズする必要のあるファイルについては、コマンドはより複雑になります。ファイルをエクスポートした場合、「Exported File Browser」を使用してファイルをチェックインできます。コマンドでは、`sourcePath`を指定する必要があります。`sourcePath`は、このコンポーネントタイプのファイルをブラウズしたときにブラウザインタフェースに表示されるパスです。

次の例では、ファイル `dsn.n1test` からデータソース名をチェックインします。

```
%> cr_cli -cmd cdb.rsrc.ci
      -src exported/dsn.n1test
      -dst dsn.n1test
      -type 'com.sun.windows#data source name'
      -platform 'NM:system#Windows 2000 Server'
      -pickerName 'Exported File Browser'
      -extraOpts sourcePath='System DSNn\1test\'
      -u **** -p ****
```

▼ Windows 2000 ファイルまたはアプリケーションを配備する

- 1 以下の説明に従って、コンポーネントを取得します。
- 2 Sun N1 Service Provisioning System アプリケーションの「Components」セクションへ進みます。
- 3 配備するコンポーネントを選択します。
配備するコンポーネントのタイプに応じて、変数を定義したり、あるいはほかの手順を実行します。最低でも、以下に示す手順は実行します。

- 4 「Default:Install」 プロシージャーの横にある「Run in the Actions」 カラムをクリックします。
インストールプロシージャーを実行するための「plan details」 ページが現れます。
- 5 ターゲットホストを選択します。
ターゲットホストは、配備するコンポーネントを適用するホストになります。たとえば、Microsoft Windows IIS アプリケーションを Windows 以外のホストに配備するのは適切ではありません。
- 6 「Run Plan」 をクリックします。

コンポーネントタイプ

ブラウザインタフェースを反映するために、このプラグイン用のコンポーネントタイプは、3つの部分にグループ化されています。

- Windows アプリケーションコンポーネントタイプ
- IIS コンポーネントタイプ
- 追加の Windows コンポーネントタイプ

Windows アプリケーションコンポーネントタイプ

Windows アプリケーションコンポーネントタイプは、3タイプあります。

- [26 ページの「COM+ Application コンポーネントタイプ」](#)
- [28 ページの「COM Component コンポーネントタイプ」](#)
- [29 ページの「Microsoft Windows Installer File \(*.msi\) コンポーネントタイプ」](#)

COM+ Application コンポーネントタイプ

このタイプのコンポーネントは、COM+ アプリケーションを表します。COM+ アプリケーションは、1つの単位で扱われます。設定と内容は、グループとしてインストールされます。

COM+ アプリケーションのブラウザ

COM+ アプリケーションをブラウズすると、ターゲットシステム上の COM+ アプリケーションがアルファベット順でブラウザに表示されます。

チェックインする単一の COM+ アプリケーションを選択することができます。COM+ アプリケーションには子がないため、これを拡張することはできません。

エクスポート/内部ファイル形式

COM+ アプリケーションは、COM+ Admin SDK を使用して Microsoft Windows Installer (MSI) ファイルにエクスポートされます。

コンポーネントの比較

COM+ アプリケーションは、MSI ファイルとしてターゲットシステムに再エクスポートされ、アプリケーションのインストールに使用された MSI ファイルと比較されます。ソフトウェアは、差があることのみを示し、差の詳細は示しません。

COM+ アプリケーションのインストール

- 同じ名前の COM+ アプリケーションがターゲットシステムにすでにインストールされており、サービスとして実行されている場合、既存のアプリケーションは、実行されている依存サービスと共に停止します。COM+ アプリケーションはその後、COM+ カタログから削除されます。
- 新しい COM+ アプリケーションは、COM+ Admin SDK を使用してインストールされます。
- COM+ アプリケーションを起動する場合は、startApp 呼び出しステップを使って COM+ アプリケーションを手動で起動する必要があります。

COM+ アプリケーションのアンインストール

COM+ アプリケーションは、COM+ Admin SDK を使用してアンインストールされます。

エラー状態

表 4-1 COM+ アプリケーションのエラー状態

アクション	状態	結果
インストール	同じ名前の COM+ アプリケーションがすでに存在しており、それを停止できないか、依存サービスを停止することができない	インストールに失敗する
アンインストール	インストールに使用した MSI ファイルを利用できない	アンインストールに失敗する
インストールまたはアンインストール	リモートエージェントが管理特権を持っていない	インストールまたはアンインストールに失敗する

拡張コントロールプロシージャ

表 4-2 COM+ アプリケーション拡張コントロールプロシージャ

名前	パラメータ	説明
startApp	<i>appName</i> - COM+ アプリケーションのフルネーム	サービスとして実行される場合、COM+ アプリケーションを起動する
stopApp	<i>appName</i> - 停止する COM+ アプリケーションのフルネーム	COM+ アプリケーションとすべての依存サービスを停止する
stopRouter	なし	COM+ 経路制御サービスを停止する
startRouter	なし	COM+ 経路制御サービスを起動する
installAsUser	<i>rsrcSrcPath</i> - COM+ アプリケーションの名前 <i>rsrcInstallPath</i> - アプリケーションを表す *.msi ファイルのパス <i>userID</i> - アプリケーションを実行するユーザー <i>password</i> - ユーザーのパスワード	特定のユーザーとして実行される COM+ アプリケーションのインストールを可能にする

COM Component コンポーネントタイプ

このコンポーネントタイプは、COM ファイルを表します。

ブラウズ

このコンポーネントタイプ用のファイルを選択するには、ファイルブラウザから *.ocx または *.dll ファイルを選択します。

コンポーネントの比較

COM コンポーネントは、バイナリファイルで、インストール時に使用されたファイルと比較されます。ソフトウェアは差があることのみを示し、差の詳細は示しません。

COM コンポーネントのインストール

次のコマンド行を使用して、Regsvr32 ユーティリティを呼び出し、DLL に COM コンポーネントを登録します。

```
regsvr32.exe /s file path
```

COM コンポーネントのアンインストール

次のコマンド行を使用して、Regsvr32 ユーティリティを呼び出し、DLL の COM コンポーネントを登録解除します。

```
regsvr32.exe /s /u <file path>
```

DLL が登録解除されたあと、ターゲットシステムから削除されます。

エラー状態

表 4-3 COM コンポーネントのエラー状態

アクション	状態	結果
インストール	指定した .dll または .ocx ファイルに COM コンポーネントが含まれていない	インストールに失敗する
アンインストール	指定した .dll または .ocx ファイルに COM コンポーネントが含まれていない	アンインストールに失敗する

Microsoft Windows Installer File (*.msi) コンポーネントタイプ

このタイプのコンポーネントとして、Microsoft Installer (MSI) ファイルが含まれます。

ブラウズ

このコンポーネントタイプ用のファイルを選択するには、ファイルブラウザから *.msi ファイルを選択します。

MSI ファイルのインストール

Microsoft Windows インストーラサービスを MSI ファイルで呼び出して、ターゲットシステムにインポートするには、次のコマンドを使用します。

```
msiexec /qn /i file path
```

MSI ファイルのアンインストール

Microsoft Windows インストーラサービスを、インストール時に使用した MSI ファイルで呼び出して、パッケージをアンインストールするには、次のコマンドを使用します。

```
msiexec /qn /x file path
```

msiexec の実行が完了したあと、MSI ファイルは削除されます。

エラー状態

表 4-4 Microsoft Windows インストーラファイルのエラー状態

アクション	状態	結果
インストール	指定の *.msi ファイルは、正しい Microsoft Windows インストーラファイルではない	インストールに失敗する
インストール	エージェントは、インストールを実行するための正しいアクセス許可を持っていない	インストールに失敗する
アンインストール	パッケージはすでにアンインストールされている	アンインストールに失敗する

IIS コンポーネントタイプ

IIS コンポーネントタイプは、いくつかの共通情報を共有し、複数のコンポーネントタイプで構成されます。

- 30 ページの「IIS コンポーネントタイプ共通の形式、エラー、機能」
- 32 ページの「IIS Global Filter Settings コンポーネントタイプ」
- 32 ページの「IIS Web Site Filter Settings コンポーネントタイプ」
- 33 ページの「IIS Global Settings コンポーネントタイプ」
- 33 ページの「IIS Website (IIS Virtual Directory) コンポーネントタイプ」
- 34 ページの「IIS Website Filter コンポーネントタイプ」

IIS コンポーネントタイプ共通の形式、エラー、機能

IIS コンポーネントタイプは、共通の実装を共有します。IIS メタベースに格納されているデータは、すべての IIS コンポーネントタイプでエクスポート、インストール、および削除することができます。共通の振る舞いを可能にするために、これらのコンポーネントタイプは一連の機能、形式、およびエラーを共有しています。

共通 IIS ブラウザ

IIS コンポーネントをブラウズすると、ターゲットシステム上の web サイトおよび仮想ディレクトリのリストがブラウザに表示されます。これらの項目は、メタデータベースに現れる順に表示されます。これは、IIS コントロールパネルに現れる項目の順序と同じです。このリストの順序は英字順では「ありません」。

1 つの web サイトか仮想ディレクトリを選択できます。web サイトの選択は、再帰的のみなされます。web サイトをダブルクリックすると、web サイト上の仮想ディレクトリのリストが表示されます。

エクスポート/内部ファイル形式

すべての IIS タイプは、XML 形式を使用して、メタベースのそれらのセクションを格納します。現行の XML 形式は、NTACL (AdminACL など) タイプのメタベースプロパティをサポートしていません。メタベースの読み取りまたは書き込み時にこのタイプのプロパティが見つかった場合、それらは無視されます。さらに、IPSec (IPSecurity など) タイプのプロパティは、シリアルライズされたオブジェクトとして書き出されます。これらのオブジェクトは、直接調べている間も、また出力された差分情報も判読不可能です。

差分

スナップショット時、メタベースの現在の状態が XML ファイルにエクスポートされます。M-I 差分時、メタベースは再エクスポートされ、元の XML ファイルと比較されます。これらのファイルの差分生成には、標準の XML differentiator が使用されます。

エラー状態

表 4-5 IIS タイプ共通のエラー状態

アクション	状態	結果
インストール/エクスポート	IIS が存在しないか、バージョンが正しくない	インストール/エクスポートに失敗する
インストール/アンインストール	リモートエージェントが管理特権を持っていない	インストール/アンインストールに失敗する

IIS web サイトまたは仮想ディレクトリ設定

IIS web サイトまたは仮想ディレクトリのための設定を表します。このコンポーネントタイプは、web サイトと仮想ディレクトリのための設定のみを含みます。web サイト上の内容は、別リソースとしてチェックインされなければなりません。

IIS Web サイトまたは仮想ディレクトリのインストール

インストールは、XML ファイルを読み込んで、そのファイルをターゲットシステムのメタベースにインポートすることで行われます。同じ名前の web サイトが存在する場合、古い web サイトは上書きされます。システム上に同じ名前の複数の web サイトが存在する場合、最初に見つかった web サイトが削除され上書きされます。

特殊なケースとして、アンタイプキーまたはノード、および SSL 証明書などが含まれますが、それらは配備されません。IIS (SSLCertHash および SSLStoreName) 中の SSL 証明書に関連する設定がターゲットシステム内に存在する場合、それらは配備時に保持されます。関連する SSL 設定が存在しない場合に、設定が追加されることはありません。

サイトが配備または再配備されたあとで、セキュリティ保護されたサイトを立ち上げるには、IIS を再起動する必要があります。

IIS Web サイトまたは仮想ディレクトリのアンインストール

web サイト全体が、ターゲットシステムから削除されます。web サイト上の仮想ディレクトリは、プロビジョニングソフトウェアによってインストールされたかどうかにかかわらず、削除されます。設定が仮想ディレクトリ専用の場合、そのディレクトリのみが削除され、それを含むサイトは削除されません。アンインストールは、名前の一致によって行われるため、システム上で最初に見つかった同じ名前の web サイトがアンインストールされます。このプロセスが完了したら、インストール時に使用された XML ファイルが削除されます。

IIS Global Filter Settings コンポーネントタイプ

このコンポーネントタイプは、グローバル IIS フィルタ設定を表すのに使用されます。このコンポーネントタイプは、IIS グローバルフィルタのための設定のみを含みます。フィルタを実装する実際の DLL は、別にインストールする必要があります。

IIS グローバルフィルタのブラウズ

IIS グローバルフィルタ設定コンポーネントをブラウズすると、ターゲットシステム上のグローバルフィルタのリストがブラウザに表示されます。これらのフィルタは、メタデータベースに現れる順に表示されます。これは、IIS コントロールパネルに現れる項目の順序と同じです。このリストの順序は英字順では「ありません」。

1つのフィルタを選択することができます。フィルタは展開できません。

IIS グローバルフィルタのインストール

インストールは、XML ファイルを読み込んで、そのファイルをターゲットシステムのメタデータベースにインポートすることで行われます。同じ名前のフィルタ設定がターゲットマシンに存在する場合、既存のフィルタ設定は上書きされます。

IIS グローバルフィルタのアンインストール

フィルタ設定は、ターゲットシステム上で削除されます。設定が削除されたら、インストール時に使用された XML ファイルが削除されます。

IIS Web Site Filter Settings コンポーネントタイプ

このコンポーネントタイプは、web サイトフィルタのための設定のみを含みます。フィルタを実装する実際の DLL ファイルは、別にインストールする必要があります。

Web サイトフィルタ設定のブラウズ

IIS web サイトフィルタ設定コンポーネントをブラウズすると、ターゲットシステム上のグローバルフィルタのリストがブラウザに表示されます。これらのフィルタは、メタデータベースに現れる順に表示されます。これは、IIS コントロールパネルに現れる項目の順序と同じです。このリストの順序は英字順では「ありません」。

web サイト用のフィルタリストを表示するには、web サイトを展開する必要があります。チェックインするすべてのweb サイトフィルタを選択することも、個々のフィルタを選択することもできます。

web サイトフィルタ設定のインストール

インストールは、XMLファイルを読み込んで、そのファイルをターゲットシステムのメタベースにインポートすることで行われます。同じ名前のフィルタ設定がターゲットマシンに存在する場合、既存のフィルタ設定は上書きされます。

web サイトフィルタ設定のアンインストール

フィルタ設定は、ターゲットシステム上で削除されます。設定が削除されたら、インストール時に使用されたXMLファイルが削除されます。

IIS Global Settings コンポーネントタイプ

このコンポーネントタイプは、グローバル IIS 設定を表すのに使用されます。

グローバル設定のブラウズ

IIS グローバル設定コンポーネントをブラウズすると、ターゲットシステム上の設定のリストがブラウザに表示されます。これらの設定は、メタデータベースで検索された順に表示されます。

チェックインする単一の設定を選択できます。設定に子は含まれないため、展開できません。

グローバル設定のインストール

インストールは、XMLファイルを読み込んで、そのファイルをターゲットシステムのメタベースにインポートすることで行われます。ターゲットシステムに設定が存在する場合、その設定は上書きされます。

グローバル設定のアンインストール

グローバル設定はアンインストールできません。アンインストールを行っても、インストール時に使用されたXMLファイルが削除されるだけで、ターゲットシステムに影響はありません。

IIS Website (IIS Virtual Directory) コンポーネントタイプ

IIS Website (IIS Virtual Directory) コンポーネントタイプは、次の4つのコンポーネントを含む複合コンポーネントタイプです。

- IIS web サイトまたは仮想ディレクトリ設定を含むコンポーネント

- IIS 仮想ディレクトリセットを識別するコンポーネント
- IIS web サイトフィルタセットを定義するコンポーネント
- ディレクトリを含むコンポーネント

IIS Website Filter コンポーネントタイプ

IIS Website Filter コンポーネントタイプは、次の 2 つのコンポーネントを含む複合コンポーネントタイプです。

- IIS web サイトフィルタ設定を含むコンポーネント
- COM オブジェクトを含むコンポーネント

追加の Windows コンポーネントタイプ

Windows 2000 プラグインは、さらにいくつかの追加コンポーネントタイプを提供します。

- [34 ページの「Registry Keys コンポーネントタイプ」](#)
- [35 ページの「Registry File コンポーネントタイプ」](#)
- [36 ページの「Data Source Name コンポーネントタイプ」](#)
- [37 ページの「Microsoft Windows Batch File コンポーネントタイプ」](#)
- [37 ページの「Microsoft Windows Scripting Host Script コンポーネントタイプ」](#)

Registry Keys コンポーネントタイプ

このコンポーネントタイプは、レジストリキーとその関連値を表すのに使用されます。

ブラウズ

レジストリキーを探しブラウズすると、ターゲットシステム上の主レジストリルートからのレジストリキーのリストが、ブラウザに表示されます。主レジストリルートには、HKEY_LOCAL_MACHINE、HKEY_CLASSES_ROOT、HKEY_CURRENT_USER、HKEY_USERS、および HKEY_CURRENT_CONFIG が含まれます。これらの項目は、レジストリに表示される順に現れます。

チェックインする個々のキーを選択できます。キーを選択すると、キーとそのすべての子がチェックインされます。キーをダブルクリックすると、値が見つかるまで下方方向に再帰的にチェックされます。値の名前は表示されますが、その内容は表示されません。値は、個別にエクスポートできます。

エクスポート/内部ファイル形式

レジストリキーは、XML ファイルにエクスポートされます。

レジストリキーのバージョン間の違い

スナップショットの実行時、レジストリキーの現在の状態 (キーの子を含む) が XML ファイルにエクスポートされます。差分チェック時、レジストリキーは再エクスポートされ、元の XML ファイルと比較されます。これらのファイルの差分生成には、標準の XML difference comparator が使用されます。

レジストリキーのインストール

レジストリを表す XML ファイルは、execJava ステップを使用して、読み取られてターゲットシステムにインポートされます。値がターゲットシステムにすでに存在するキーは、すべて上書きされます。

レジストリキーのアンインストール

execJava 実装は、エクスポートされたキーのルートを調べ、その下のすべてのキーと値を削除します。そのルートが値の場合は、それも削除されます。

エラー状態

表 4-6 レジストリキーのエラー状態

アクション	状態	結果
インストールまたはアンインストール	リモートエージェントが管理特権を持っていない	インストールまたはアンインストールに失敗する

Registry File コンポーネントタイプ

このコンポーネントタイプのコンポーネントには、レジストリファイル (*.reg) が含まれています。レジストリファイルとは、レジストリメタベースに追加またはメタベースから削除するキーおよび値を指定するテキストファイルです。

注-プロビジョニングソフトウェアは、レジストリファイルのバージョン間の違いを比較しません。レジストリファイル間の違いを見るには、代わりに Registry Keys コンポーネントタイプを使用します。

レジストリファイルのブラウズ

このコンポーネントタイプ用のファイルを選択するには、ファイルブラウザから *.reg ファイルを選択します。

レジストリファイルのインストール

Regedit /s file path は、*.reg ファイルで呼び出され、その変更内容をレジストリに書き込みます。

レジストリファイルのアンインストール

アンインストールでは、インストール時に使用した*.reg ファイルだけが削除されます。レジストリファイル内のレジストリキーは削除されません。レジストリのアンインストールを有効にするにはRegistry Keys タイプを使用します。

エラー状態

表4-7 レジストリファイルのエラー状態

アクション	状態	結果
インストール	指定した*.reg ファイルが、regedit のための正しい形式ではない	インストールに失敗する
インストール	*.reg ファイルで指定されたレジストリセクションへの書き込みアクセス許可をエージェントが持っていない	インストールに失敗する

Data Source Name コンポーネントタイプ

このタイプのコンポーネントは、データベースに接続するための ODBC 設定を表します。これらの設定は、システム上の「Data Source Administrator」コントロールパネルで変更できます。実際の設定は、レジストリ内の特定の場所に格納されます。その結果、Data Source Name (DSN) リソースタイプが、Registry Keys リソースタイプの上に構築されます。DSN インストール、エクスポート、およびアンインストール機能は、Registry Key リソースハンドラーが提供する機能を直接使用します。DSN ブラウザは Registry ブラウザと似ており、「Data Source Administrator」コントロールパネルに近い機能を提供します。

DSN ファイルのブラウズ

DNS コンポーネントをブラウズすると、ターゲットシステム上の主レジストリルートからの DNS ファイルのリストが、ブラウザに表示されます。DSN ルートには、User と System が含まれます。DSN ファイルはアルファベット順に表示されます。

チェックインする個々の DSN ファイルを選択できます。System および User ルートをダブルクリックすると、含まれている DSN エントリが表示されます。

エクスポート/内部ファイル形式

エクスポートでは、レジストリ階層の同じレベルにある「ODBC Data Sources」キー内の同じ名前の値だけでなく、DSN 設定をすべて含むキーをエクスポートします。

DSN ファイルのアンインストール

DSN のアンインストールは、レジストリのアンインストールに基づいています。削除されるパスは、利用可能な DSN 設定を表示するために DSN ユーザーインターフェイスが使用するキーではなく、DSN 設定を含むキーであることに注意してください。同様に、このキーを削除するための特殊なロジックがあります。このプロセスのセマンティクスは、レジストリアンインストールのセマンティクスとわずかに異なりますが、両プロセスとも同じエグゼキュータを使用します。

エラー状態

DSN システムコンポーネントは、レジストリシステムコンポーネントのインストールメソッドを直接呼び出します。実装に関する情報や起きる可能性のあるエラーについては、[34 ページの「Registry Keys コンポーネントタイプ」](#)を参照してください。

Microsoft Windows Batch File コンポーネントタイプ

このコンポーネントタイプのコンポーネントには、Windows のバッチファイル *.bat か コマンドファイル *.cmd が含まれています。

ブラウズ

このタイプのコンポーネントを作成する場合、*.bat または *.cmd 拡張子が付くファイルのみを表示するようにファイルブラウザを設定できます。

エラー状態

表 4-8 Microsoft Windows バッチファイルのエラー状態

アクション	状態	結果
インストール	指定したバッチファイルが有効なバッチファイルでないか、エラーが含まれている	インストールに失敗する

Microsoft Windows Scripting Host Script コンポーネントタイプ

このタイプのコンポーネントは、Microsoft Windows scripting host (WSH) スクリプトを含みます。これらのファイルは、vbscript (*.vbs) か jscript (*.js) で作成されるテキストファイルです。これらのファイルは、XML プロジェクトファイル (*.wsf) に含まれることもあります。

Scripting Host スクリプトのブラウズ

このタイプのコンポーネントを作成する場合、*.js、*.vbs、または *.wsf 拡張子が付くファイルのみを表示するようにファイルブラウザを設定できます。

Scripting Host スクリプトのアンインストール

このタイプのコンポーネントをアンインストールすると、スクリプトファイルはターゲットホストから削除されます。ただし、そのスクリプトが実行したアクションは取り消されません。

エラー状態

表 4-9 Microsoft Windows Scripting Host スクリプトのエラー状態

アクション	状態	結果
インストール	指定されたファイルは、有効な *.wsf ファイルではありません。または、エラーを含んでいます。	インストールに失敗する

Microsoft Windows System サービス

Microsoft Windows System Component は、特定のコンポーネントタイプと関連する windows システム以外に、異なる windows システムと対話するためのユーティリティを提供します。プラグインは、次の 5 つの Windows 特有のシステムサービスを含みます。

- com.sun.windows#COM+ application services
- com.sun.windows#data source name services
- com.sun.windows#metabase services
- com.sun.windows#registry key services
- com.sun.windows#services

拡張コントロールサービス

拡張コントロールサービスは、リソースまたはコンポーネントと関連するソフトウェアオペレーティングを行うプロシージャです。これらのサービスは、Microsoft IIS Web Server の起動と停止のためのサービスと、特定の Microsoft Windows サービスの起動と停止のためのサービスを含みます。プロビジョニングソフトウェアは、2 組の拡張コントロールサービスを含みます。これらは、個々のリソースタイプに特有ではありません。

- 一般目的のコントロールサービス。任意のコンポーネントまたはプランから呼び出されます。
- リソースタイプ特有のコントロールサービス。リソースの特定のタイプに関連付けられ、これらのリソースタイプを持つリソースを含むコンポーネントまたはプランからのみ呼び出されます。

一般目的のコントロールサービスには、Microsoft Windows サービスの起動と停止のための機能が含まれます。これらのコントロールサービスは、任意のコンポーネントまたはプランから呼び出すことができます。

リソースタイプ特有のコントロールサービスの例として、COM+ Application リソースタイプに含まれる `startRouter` プロシージャがあります。このプロシージャは、COM+ 経路制御サービスを起動します。このサービスは、COM+ Application リソースタイプのリソースとのみ動作します。

IIS 用の拡張コントロールサービス

以下の表は、IIS を制御するプロシージャを示しています。

表 4-10 IIS を制御する組み込みプロシージャ

名前	パラメータ	説明
<code>stopIIS</code>	なし	IIS プロセスの停止
<code>startIIS</code>	なし	起動していない場合、IIS を再起動する

Microsoft Windows サービス用の拡張コントロールサービス

コンポーネントまたはプランは、特定の Microsoft Windows サービスを含むことがあります。

次の表は、Microsoft Windows サービスを制御するプロシージャを説明しています。

表 4-11 Microsoft Windows サービスを制御する組み込みプロシージャ

名前	パラメータ	説明
<code>stopService</code>	<i>serviceName</i> - 停止するサービスの名前	サービスを停止する
<code>startService</code>	<i>serviceName</i> - 起動するサービスの名前	Microsoft Windows サービスを起動する

索引

J

JAR ファイル, 17

Java アーカイブ, 「JAR ファイル」を参照

W

windows プラグイン

インポート, 19-20

構成, 20

Windows プラグイン

ターゲットホストの要件, 13

配備サーバーの要件, 13

あ

アップグレード時の注意事項, 20

アプリケーションの取得, 24-25

た

ターゲットホストの要件, 13

は

配備サーバーの要件, 13

ふ

プラグインのインポート, 19-20

プラグインの構成, 20

プラグインファイル

インポート, 19-20

場所, 17

